

平成 23 年度第 3 回陸上掘削部会執行部会

日時:2012 年 3 月 21 日(水)13:30~17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者:

執行部:佐藤比呂志(部会長/東京大学地震研究所)、井龍康文(部会長補佐/名古屋大学)、
浦辺徹郎(東京大学)、小村健太朗(防災科学技術研究所)、小泉尚嗣(産業技術総合研究所)、
中田節也(東京大学地震研究所)、長沼 毅(広島大学)、廣野哲朗(大阪大学)、
町山栄章(海洋研究開発機構)、MORI, James Jiro(SAG 委員/京都大学防災研究所)、
山田泰広(京都大学)

事務局:梅津慶太(海洋研究開発機構)

欠席者:岩森 光(SAG 委員/東京工業大学)、小笠原 宏(立命館大学)、
功刀 卓(防災科学技術研究所)、高嶋礼詩(東北大学)、山元孝広(産業技術総合研究所)

議事次第(案)

1. 前回(111111)議事録確認【事務局】.....資料 1
2. 2011 年度活動報告と 2012 年度活動方針について【佐藤、井龍】.....資料 2
3. 2012 年度予算と J-DESC 年会費見直しについて【事務局、佐藤、井龍】.....資料 3~5
4. 陸上掘削部会の次期執行部体制について【佐藤、井龍】
5. 陸上掘削特集号・WS の状況【井龍】
6. JpGU 地球掘削科学セッション報告【事務局】.....資料 6
7. ICDP SAG 会議について【Mori】.....資料 7、8
8. ICDP プロポーザルの状況
 - ・阿蘇【中田】
 - ・Rapid Response Drilling【Mori】
 - ・地熱
 - ・その他
9. ICDP 関連プロジェクト活動報告
 - ・Alpine Fault【佐藤、廣野】
 - ・COREF【井龍】
 - ・GONAF
 - ・その他

配布資料

- 資料 1 前回会議(111111)議事録(案)
- 資料 2 平成 23 年度活動方針
- 資料 3 J-DESC 年会費見直しについて
- 資料 4 平成 23 年度 J-DESC 予算
- 資料 5 平成 24 年 4 月~5 月暫定予算
- 資料 6 JpGU 地球掘削科学セッション投稿一覧
- 資料 7 SAG 会議 Proposal list (取扱注意)
- 資料 8 Letter to Mori: Science Advisory Group Chairmanship

合意事項(案)

合意事項(120321-01):J-DESCの会費を減額することを了承する。ただし、(事務方に説明可能な形で)人数と金額の根拠を明確に示す必要がある。

合意事項(120321-02):1 会員 1 票という原則についても同意する。

合意項目(120321-03):機関、部局、それ以下の規模を10万円、5万円、3万円に分けるのがふさわしい。

実行項目(120321-04):以上の件(120321-01~03)について井龍部会長補佐よりIODP部会側に伝える。

実行項目(120321-05):来年度予算編成を行い、会計担当の山田委員が事前にIODP部会との調整を行う。

合意項目(120321-06):井龍氏を新部会長候補とし、次期執行部員の選出は井龍氏に一任する。

実行項目(120321-07):役員任期を総会の開催時期に合わせてシフトさせる旨の規約改正を提案する。

合意項目(120321-08):文科省を含め関係者への配布を考え、少々多めに地学雑誌特集号の冊子(50~100部)を購入する。そのための予算を計上する。

議事録(案)

1. 前回(111111)議事録確認【事務局】.....資料1
会議終了までにコメント等はなかったため、前回議事録(案)は原案のまま承認された。

2. 2011年度活動報告と2012年度活動方針について【佐藤、井龍】.....資料2

資料2に基づき、今年度の活動がレビューされるとともに、2012年度の活動方針の検討が行われた。

- ・ 日本発ICDP掘削計画の実現については、いくつかのプロジェクトが進行中であり、来年度は引き続き積極的に支援を行う。また、COREFやGONAF、Alpine Faultなど既存のプロジェクトに加え、ワークショッププロポーザルが提出された地熱掘削(JBBP)を明示する。
- ・ 陸上掘削部会提案によるJ-DESCコアスクールについては、昨年度の延期を含め2回実施した。来年度の計画にも含める。
- ・ ICDP国際ワークショップへの戦略的な参加の支援については、今年度の実績として数名のワークショップ参加旅費を支援した。来年度についても支援を行う。
- ・ 海外ICDPプロポーザルへの参加支援については、プロポーネントからのレスポンスが無いものが多く、難航した。来年度については中国を含めた関係諸国の情報収集を強化するとともに、参加する研究者への支援を実施する。
- ・ 国内における陸上科学掘削ワークショップの開催と支援については、現在、国内におけるワークショッププロポーザルは採択されていない。現在、日本発のプロポーザルが提案され、今回のSAG会議で審査される。採択された際には支援を行う。
- ・ ICDP以外の国際共同研究計画として行われている陸上掘削への支援について、来年度は中国を含めた関係諸国からの情報収集を強化しながら、計画への橋渡しを行うほか、参加する研究者の支援を行う。
- ・ 各種陸上掘削広報物の配布促進および制作については、今年度Rapid Response Drillingの日本語版パンフレットを出版する予定だったが、出版には至っていない。
- ・ 日本地球惑星科学連合2011年大会における活動として今年度、IODP部会とともに地球掘削科学セッションおよびタウンホールミーティングを開催した。来年度についても実施する。
- ・ EGUへは複数の執行部委員が参加した。来年度は、AGUなども包含するため、国際学会等で開催されるタウンホールミーティングへ参加することを方針とする。

地熱掘削に関するプロポーザル準備ための費用を負担した件について。

- ・ 文科省からの地熱関連予算要求が想定通りとならなかったため、状況が一変した。
- ・ そのため、ICDPの地熱関連のプロジェクトのための予算取りの再スタートのためにはどうするかを話し合った会議となった。
- ・ 打ち合わせには各方面に繋がりのある方も出席し、それなりに情報も持っているようであり、今後はその情報をもとに戦略的に動いていくことが必要であることを確認した。

- ・地熱関連の国内の動きに関して情報収集を強化するため執行部としてサポートすることが必要。
- ・佐藤部会長が今日出た地熱関連の情報をまとめ、JBBP 側に伝える。

3. 2012 年度予算と J-DESC 年会費見直しについて【事務局、佐藤、井龍】.....資料 3～5
井龍部会長補佐より年会費見直しについて説明がなされた。

- ・ 1/25 の臨時総会の際に資料 3 が提示された。
- ・ 繰越金が 1,100 万円となっており、大学および研究所の交付金も毎年減少している昨今の事情を鑑み、年会費を減額する案が IODP 部会から提示されている。
- ・ 文章として書くのであれば人数規模を明記するべきである。そうでなければ機関として支払いできない。少なくとも事務方が理解できる基準を作る必要がある。

合意事項(120321-01):J-DESC の会費を減額することを了承する。ただし、(事務方に説明可能な形で)人数と金額の根拠を明確に示す必要がある。

合意事項(120321-02): 1 会員 1 票という原則についても同意する。

合意項目(120321-03):機関、部局、それ以下の規模を 10 万円、5 万円、3 万円に分けるのがふさわしい。

実行項目(120321-04):以上の件(120321-01～03)について井龍部会長補佐よりIODP部会側に伝える。

会計担当山田委員より、暫定予算について説明がなされた。

- ・ 昨年度の会計監査スケジュールでは受託することが困難である旨が学会支援機構より連絡があり、これに対応するため、定例総会を毎年 5 月末に開催することが昨年 4 月の総会において承認された。
- ・ また、総会がシフトすることにより年度初めから総会までの経費執行に支障が出ることから、年度当初の予算執行は執行部の裁量の下、可能とすることも合わせて了承されている。
- ・ これに基づき、IODP 部会とともに 4/1～総会までの予算を作成し、この期間はこれに基づき執行していく。

会計担当山田委員より、来年度予算編成について説明がなされた。

- ・ 収入が減る分、支出を調節する必要があるのかを IODP 部会と足並みを合わせる必要がある。

実行項目(120321-05):来年度予算編成を行い、会計担当の山田委員が事前に IODP 部会との調整を行う。

4. 陸上掘削部会の次期執行部体制について【佐藤、井龍】

佐藤部会長より標記について説明がなされた。

- ・ 今年度を持って現執行部員は全員任期満了となる。
- ・ 現部会長補佐の井龍氏に新部会長をお願いしたい。
- ・ 次期執行体制の構築については新部会長に一任したい。
- ・ J-DESC の役員任期について、任期延長の連絡を毎回することを避けるため、J-DESC 規約を改正し、会計年度とは別に役員任期を設定するのが良い。

合意項目(120321-06):井龍氏を新部会長候補とし、次期執行部員の選出は井龍氏に一任する。

実行項目(120321-07):役員任期を総会の開催時期に合わせてシフトさせる旨の規約改正を提案する。

以下、新執行部員選出に関するコメント

- ・ 最近の状況を考慮し長期的な視野で見れば、地熱関連の委員を入れることは重要である。
- ・ 湖沼掘削関連分野が欠けているように思える。

5. 陸上掘削特集号・WS の状況【井龍】

井龍部会長補佐より標記の件について報告がなされた。

- ・ 現時点で予定されている現行の 8 割が投稿され、今週から受理が出始める見込み。

- ・当初小特集として進めてきたが、地学雑誌側より通常の特集号としてリリースすることが提案され、それを了承した。
- ・地学雑誌側からは今年の後半に出版の見込みとの話があり、おおむね順調に進んでいる。
- ・現在、出版までの工程の1/3まで来ており、これが折り返し地点に差し掛かった段階でシンポジウムを行うことを計画している。より具体的になってきた段階で執行部に相談する。

合意項目 (120321-08):文科省を含め関係者への配布を考え、少々多めに地学雑誌特集号の冊子(50~100部)を購入する。そのための予算を計上する。

6. JpGU 地球掘削科学セッション報告【事務局】.....資料 6

事務局より資料 6 に基づき報告がなされた。

- ・地球掘削科学セッションの投稿数は最終的に 46 件に上り、セッションを開始して以来最多となった。
- ・陸上掘削関連の投稿は 4~5 件
- ・24 日に許容 70 名の部屋で開催されることが決定した(昨年までは 140 名の部屋)。

7. ICDP SAG 会議について【Mori】.....資料 7、8

Mori 委員より資料 7、8 に基づき説明がなされた。

- ・3/28-31 に京都で SAG 会議が開催される。
- ・SAG 会議の内容については Proposal Confidentiality により省略。
- ・ICDP の Chair に Mori 氏が Invite された。任期は 2 年。
- ・これまでの SAG は 1 人の Chair がアサインされていたが、今後は 2 名がアサインされることになる。
- ・Mori 氏へのレターの内容は、まず 2 年間で Chair として SAG をリードし、次の 2 年を Co-chair として Chair を補佐してほしいとのこと。

8. ICDP プロポーザルの状況

・阿蘇【中田】

- ・マッチングファンドが無いという問題が大きく、具体的な進捗はない。

・Rapid Response Drilling【Mori】

- ・海洋掘削に関しては 4/1 に出港予定。今年掘削し、再来年まで観測を行う。
- ・ICDP のプロジェクトは現在のところペンディング。

・地熱

- ・1/15 のメ切までにワークショッププロポーザルが提出された。

・その他

- ・Chicxulub に関して、プロポーザルの提出がなされるとの情報があつたが、実際には提出されていないようだ。IODP 側では FY2014 に掘削が実施される計画になっている。

9. ICDP 関連プロジェクト活動報告

・Alpine Fault

- ・今年掘削が開始されるとの情報がある。

・COREF【井龍】

- ・お金があればいつでも掘削を開始できる状況。

・GONAF

- ・ もう間もなく掘削が始まる。
- ・ 5月初めにPIが集まって掘削に関する打ち合わせを行うとの情報がある。

・その他

なし

以上